

「せんせ あそぼ」

小説「二十四の瞳<sup>ひとみ</sup>」の作者 ~壺井 栄~

彼女は、この小説の中で、教師と生徒との触れ合いを描き、広く人々の感動を呼びました。

彼女の生まれ育った香川県小豆郡内海町では、町の人々の強い願いの下、彼女の生誕100周年を記念して、その代表作「二十四の瞳」の中から、一つのイメージを選び、彼女と町のすべての人々の願いを像として、永く後生に伝えることとしました。



二十四の瞳像「せんせ あそぼ」

「せんせ、あそぼ！」  
昼休み、十二人の子どもたちが職員室の大石先生を大声で呼んでいます。  
まもなく先生が青空の校庭に急いでやって来ました。  
「なにして遊ぶ？」  
「カゴメカゴメ！」  
「通りゃんせ！」  
みんな楽しそうに、まずジャンケンからはじめます――。

壺井栄生誕百年を記念して、私たちはその代表作「二十四の瞳」の中からひとつのイメージを選び、永く残すことにしました。

教師は生徒を愛し、生徒は教師を慕う、こんなあたりまえの光景が日本中の学校にいつまでも満ちあふれ続けてほしい――それが私たちのなにより願いです。

一九九九年八月五日  
壺井栄生誕百年記念事業  
銅像製作実行委員会

壺井栄は、小豆島を横向きの小犬の形に例えました。小犬の後足の先端に、小説のモデルになった岬の分教場があります。それより、さらに600m先にある昭和62年の映画のロケ地「二十四の瞳映画村」の広場に像は設置されています。

